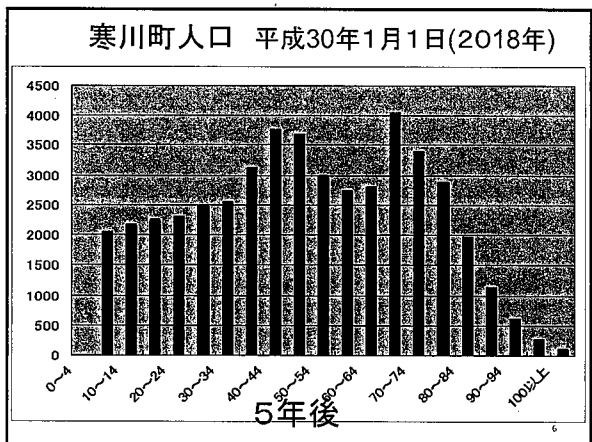
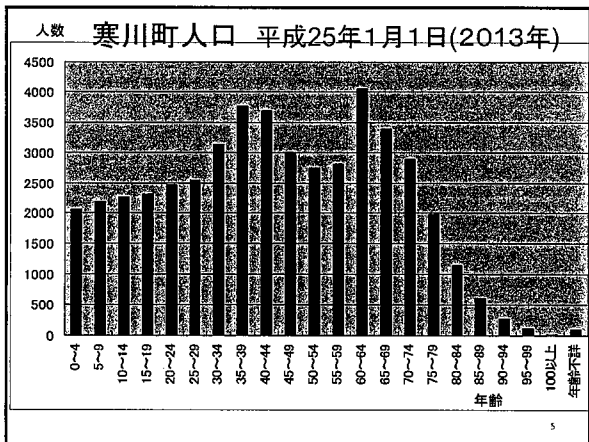
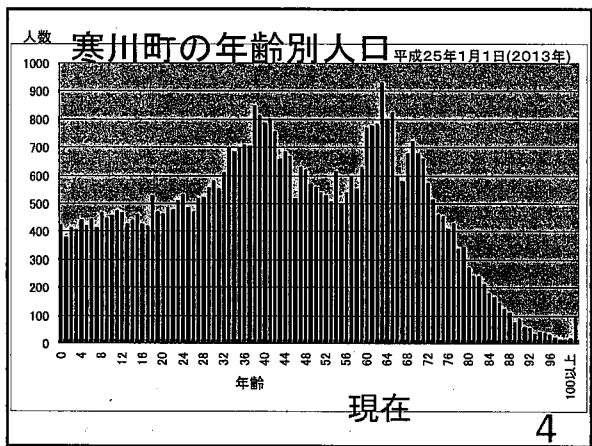
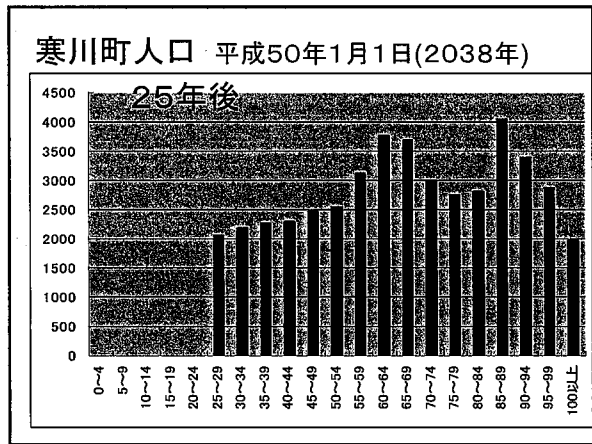
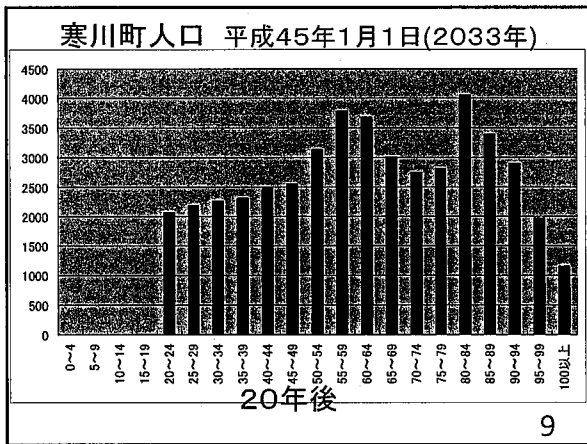
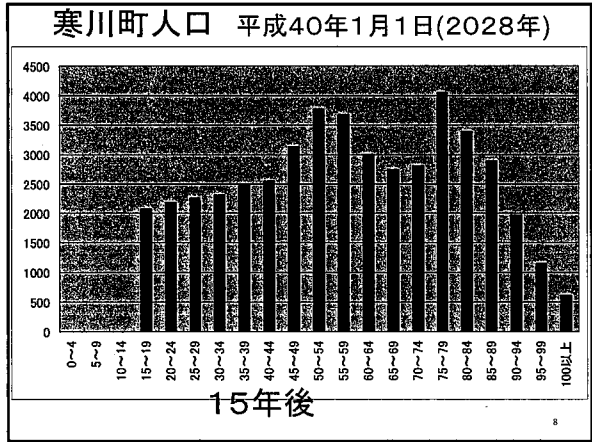
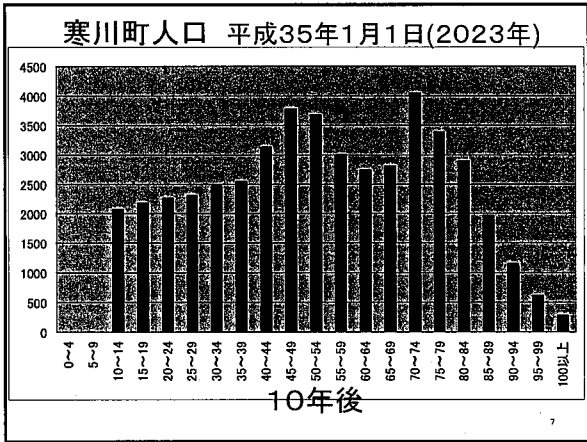


日本の高齢化の推移と将来推計 2





幻冬舎新書の話題作!

# 新老人の思想

五木寛之

日本は、急速に超高齢社会へと突入している。かつての老人像とは大きく違う。それは、単に「老い」による身体的な衰えだけでなく、社会生活や生きかたも大きく変化する。その中で、新たな生きかたを模索する「新老人」の出現である。

● 自分への面倒は、努めて自分でみる  
 ● 「若い世代に頼る」から「若い世代で支え合う」へ  
 ● 舞病や障害を抱える人びとには、あたらう限りの手助けをする  
 ● 理不尽な税金でも、歯をくいしばって払う  
 ● 所持の多い人は年金や公的介護も受けない  
 ● 新老人の五つのタイプとは  
 A. 肩書き志向型 B. モノ志向型  
 C. 若年志向型 D. 先端技術志向型  
 E. 放浪志向型

自立と相互扶助の心

# 新文化創造の価値とフレームワーク

- ・国民健康保険・医療費削減
- ・介護費用の削減
- ・自立の状況を短期間の延長
- ・寝たきりになる期間の短縮
- ・町財政の幅広い活用
- ・ピンポイントコロボロリの表現

## 意義

### 医療費・介護費の有効活用

更なる発想を付加して、精緻に

## 各種活動想定

- 役所の本庁や出先での活動・・・受付案内・会議のラုပ်おこし・電話担当
- 『老人サロン』の設置・・・散歩で立ち寄りオアシス的・・・将来的には町内全域にお茶接待、運営
- 例：図書館の一週
- 名人伝授・・・各種機関へ
  - 子ども塾 お絵かき・昔遊び・読み聞かせ・合唱など
  - 子ども寺小屋 講話の素読・習字など
- ・就学児童
- ・学校放課後
- ・保育園
- ・幼稚園
- 各種委員の案内
  - ・民生委員・町内会長
  - ・町内会の役員
  - ・審議会の委員
  - ・保護司
  - ・各種委員

## コツ

場を設定し、活動のメニューを示し、自己決定させる

背景は 自立・独立・相互扶助

・お年寄りの「自立と独立」と、相互扶助のため  
→「自分の面倒はつとめて自分で見る」文化の醸成

新文化を構想するイメージ

- ・つぎのことで同価値
  - グラウンドゴルフ・麻雀・合唱・写真・俳句・旅行・病院まわりが趣味など

ソフトインフラの確立・充実

行政の発想ではインフラ整備のために課や担当を設けるのと同様

例えば、「田端西地区まちづくり推進課」の設置と同価値  
今後の人口動態の変化に対応する「ソフトインフラ」であり、「高齢者いきいき課」などを設置する。

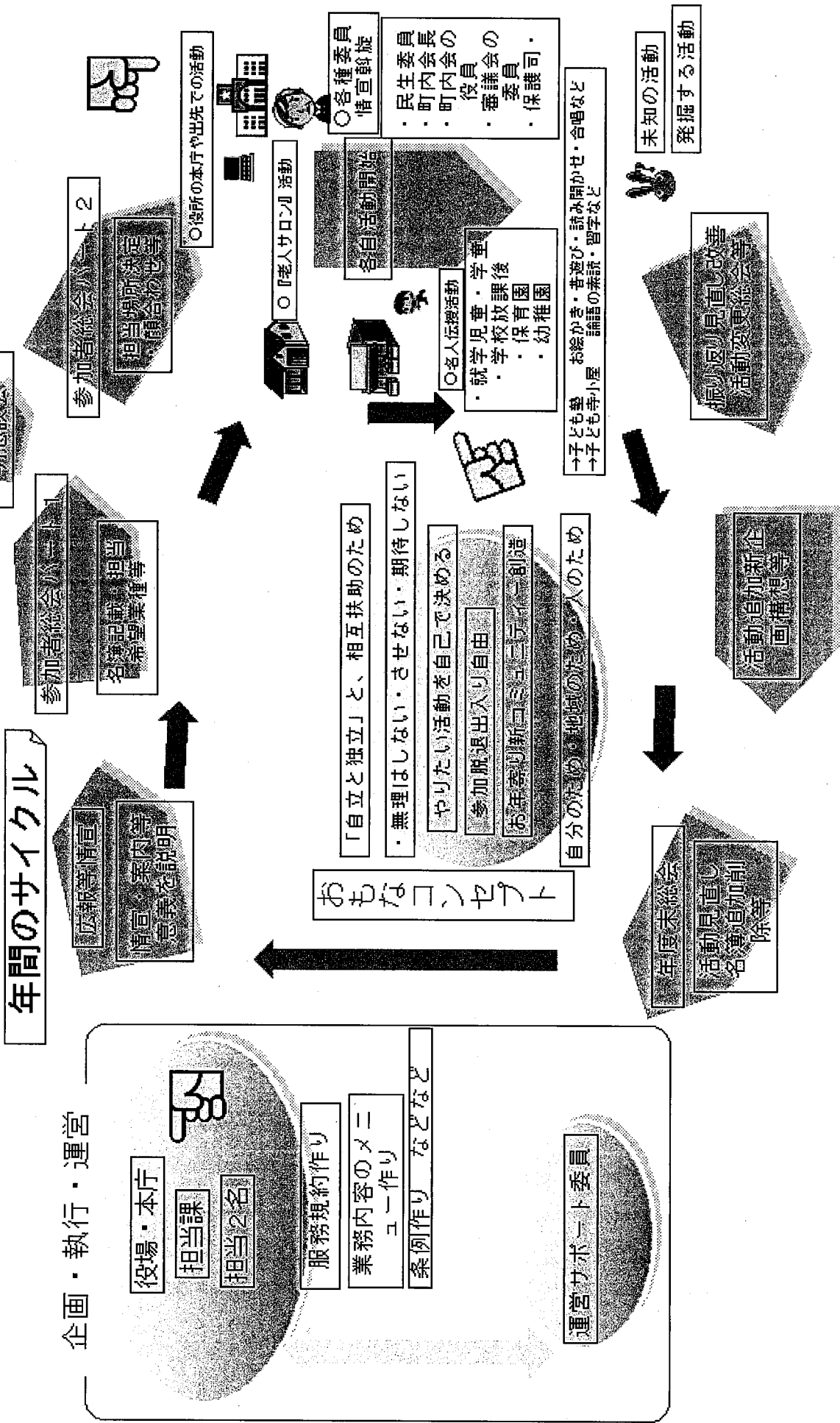
- ・ポイント制
- ・車代
- ・お礼など

ご褒美の設定

## 高齢者の特徴

何か目的ができて、その目的に向かって元気になる人が期待されている。何かに役立っている、待っててくれる人がいるなどの想いが生じる中絶に  
 体力・気力・能力・経験・技能を駆使して役立たせる。この手の活動は、無理のない。きせき、期待しない。生かすは豊か  
 ・頑固を生かす  
 ・男性は友だち作りが下手な傾向  
 ・女性はコミュニケーションが上手など

# 運営イメージラフスケッチ鳥瞰図



**「義男・老人の1日」・・・具体的イメージの一例**

定年退職後、5年を経過し再雇用を終えた義男さんは、ふと気がつく「妻以外の人とは、宅急便を受け取る際に一言二言言葉を交わすのみ」。再雇用の仕事は閑職の月日で、5年も過ぎストレスはすっかり取れていました。

奥様の口癖は「体を動かさないと、寝たきりになる」。このフレーズが繰り返される日々。

耳に胼胝いじょうなものができ始めた頃、一大決心をしました。この日より、体操着に着替え、午後2時、いつも決まった時間に決まったコースを歩き始めます。奥様の手前、短時間の散歩ではなくたっぷり1時間半をひたすら歩きます。

鶏が日の出に毎日鳴くように、規則正しく散歩を続ける律儀さは、義男さんの性格の表れでもあります。永年勤続で輪をかけて養われました。

余裕しゃくしゃくの体力で、当初は筋肉痛や膝痛がありました。継続は力そのもの。

30数年住み慣れたこの街の散歩を通して新発見が沢山できたころ。不思議なことは毎日何人かの方とすれ違いますが、誰一人挨拶を交わす方と出会っていなかったことでした。

「そうだ。俺は朝6時後半の相模線に乗り、暗くなつての帰宅の毎日だったなあ。挨拶は近所の限られた方々しか交わしていなかった」。

そんな矢先「広報さむかわ」が家のポストに。

ページをめくると「こやしになりませんか!!.....」の文字が飛び込んできました。目を擦り擦り一気に読むと、ボランティアの誘い。

「人と話したい」「人に会いたい」「何かしたい」などの思いが心の中で高まっていた頃でしたから、「広報さむかわ」の記事をいつもとは違った感じでした。

図書館の一隅に設けられている「老人サロン」には、数名の年寄りたちで賑やかです。お茶をご馳走になり、ソチで行われているオリンピックの話題に加わり、過日の大雪がまだ歩道には残っているところもあって何十年ぶりの積雪の話で多いに盛り上がりました。

これから小学校校庭での放課後見守りボランティアがあります。

放課後校庭に遊びに来る子どもは少ないですが、安全に遊んでいるか、不審な人はいないかなど校庭を何周もします。相方もいますから、二人で見て回ります。

サッカーで遊んでいる子どもがほとんどで、私どもの昔の遊びとは格段に異なっています。

パスではずれたボールが転がってきました。昔取った杵柄。力強いキックで正確に返します。「おじさん有り難う。おじさんのボール速いよ」。

身体がメラメラとよみがえり、「ボールをこのように蹴るんだよ」。体が動いていました。「おじさんまた今度も教えてくれるー」の要求。

帰宅の時間が来たので、遊んでいる子どもたちを終了させ、担当の方に挨拶をして、相方と一緒に学校を後にしました。

「今日は一日早かったなあ」。

「ポイントカードに印をつけた？」。

妻との会話も弾みます。